道中記一筆：

献立道中記：〈味の評価：□上々　□上　□中　□下〉

名所・旧跡書留め：

宅円庵（日本左衛門首塚）

江戸中期の大盗賊・日本左衛門は、尾張藩の下級武士の子で、若い頃から放蕩を繰り返した人物。本名は浜島庄兵衛。盗賊団の頭目となり、遠江国を本拠に東海道周辺を荒らしまわった結果、全国指名手配となる。逃亡していた日本左衛門は安芸国宮島で自分の手配書（初の盗賊手配書）を見て逃げ切れないと観念し、京都で自首。延享4年（1747）処刑された。享年二十九歳。首は遠江国の見付に晒されたが、金谷宿の愛人・お万こと三好ゆきが首を盗みだし、宅円庵に葬った。後に日本駄右衛門として歌舞伎『青砥稿花紅彩画』に白浪五人男（白浪＝盗賊）の頭目として描かれた。

金谷坂の石畳

金谷宿の西外れから金谷峠を越える東海道の坂道は急なうえに粘土質で、雨天時は難儀だった。そのため周辺の村に助郷を命じ石畳道とした。石畳中腹の六角堂には「すべらず地蔵尊」が祀られており、石畳が「すべらない山石」を用いていることにちなみ、合格祈願の隠れた名所となっている。

諏訪原城跡

武田勝頼の命により、天正元年（1573）に馬場信春が築いた山城。城内には武田家の氏神である諏訪神社が祀られている。天正3年（1575）武田勝頼が長篠の戦いで敗れた後、家康が城を占領し、牧野城と改名した。天正18年（1590）廃城。現在も当時の空堀や馬出が残っている。

間の宿　菊川

鎌倉時代にはすでに宿場になっており、源頼朝も泊まった記録がある。近くには大井川や金谷峠などの難所を控えていたため、間の宿となった。しかし宿泊を禁止されていた間の宿。大井川の川留時の宿泊は金谷宿の許可が必要だった。町並み図には本陣・脇本陣・問屋場・掛川藩の藩医・茶揉み名人などが見られる。名物は大根の葉を炊き込んだご飯と豆腐の田楽「菜飯田楽」だった。

久延寺

天平5年（733）頃、行基により建てられたと伝わる真言宗の古刹。江戸時代には参勤の大名たちの休憩所ともなった。周辺には多くの茶店があり、「飴の餅」が名物だった。慶長5年（1600）掛川城主・山内一豊は境内に茶亭を建て、大阪から会津へ上杉征伐に向かう家康を労った。

小夜の中山

西行法師が六十九歳で峠越えした際に詠んだ「年たけてまた越ゆべしとおもひきや　命なりけりさやの中山」の歌で有名となった場所。中山峠から先の3kmほどのだらだら下りの尾根道を指す。東海道三大難所のひとつ。